

バルーン内視鏡を中心とした小腸悪性リンパ腫診断とその予後の検討に関する研究

2003年から2018年まで小腸悪性リンパ腫のために小腸バルーン内視鏡検査を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「バルーン内視鏡を中心とした小腸悪性リンパ腫診断とその予後の検討に関する研究」という研究を行います。この研究は、2003年6月1日より2018年3月31日までに日本医科大学付属病院消化器肝臓内科にて、小腸悪性リンパ腫のために小腸バルーン内視鏡を受けられた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：バルーン内視鏡を中心とした小腸悪性リンパ腫診断とその予後の検討に関する研究
研究期間：2016年10月7日（倫理委員会承認日）～2018年3月31日
研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 大森順

(2) 研究の意義、目的について

バルーン内視鏡により小腸病変の検索が容易となり、小腸悪性リンパ腫の診断機会は増加していますが、小腸悪性リンパ腫の臨床的像や内視鏡的特徴については不明な点も多いです。本研究では、バルーン内視鏡を施行し小腸に病変を認めた悪性リンパ腫の、内視鏡診断や臨床的特徴を明らかにすることを目的とします。本研究により、臨床現場で今後の小腸悪性リンパ腫の診断、治療、予後について有用な情報が得られると考えます。

(3) 研究の方法について

2003年6月1日より2018年3月31日までに日本医科大学付属病院消化器・肝臓科にて、小腸バルーン内視鏡を受けられた患者さんの性、年齢、検査動機、内視鏡診断、組織型、生検診断の可否、治療、予後について遡及的に検討します。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器・肝臓内科 助教 大森順
〒113-0022 東京都文京区千駄木 1-1-5
電話番号：03-3822-2131（代表）
メールアドレス：67trocadero@nms.ac.jp